

手野ものがたり



▲ 上空から見る手野地区

手野地区は外輪山の北東部に位置する。集落から阿蘇五岳を望む。その背後には豊かな森林が広がっている。
(古代の里キャンプ村上空にて撮影)

魅力あふれる手野地区

市役所から北へ約4キロメートル、田園風景が広がる景色を抜けると、すぐ目の前に外輪山が迫ります。この外輪山の麓に手野地区があります。

手野地区は豊富な湧水があふれる名水の里。国造神社や古墳など阿蘇の歴史を感じることもできます。神社近くの「古代の里キャンプ場」には多くの家族連れが訪れ、賑わいを見せえています。手野地区の魅力と、それを守り伝えるために力を尽くす人々の姿をお届けします。



◀ 国造神社

阿蘇神社の北にあるため、北宮とも。杉の木が立ち並ぶ参道は荘厳な雰囲気。阿蘇神社、阿蘇山上とちょうど一直線上に並んでいるとも言われている。

同じく境内には神話にゆかりのある大鯰の霊をまつる鯰社があります。その神話は、健甕龍命が湖であった阿蘇谷を蹴破って干拓した時、湖の精である大鯰が現れたというもの。鯰が祭られて以降、阿蘇の人たちは鯰を捕えて食することをばかると言われるようになったと伝えられています。



かみのおくら 上御倉古墳

当時の有力者のお墓

6世紀に作られたとされている古墳。県内にある同様の古墳の中では比較的規模が大きいものとされています。国造神社に祭られている速瓶玉命の墓だとも言われています。



国造神社 手野のシンボル

阿蘇を開拓した健甕龍命の第一子、速瓶玉命をはじめ四神を祭る由緒ある神社。神殿と拝殿は市の有形文化財。境内の「手野の大杉」は樹齢2千年以上あったとも言われている元国指定天然記念物です。平成3年の台風で折れてしまいましたが、新たに建てられた上屋にその幹と根が保存されており、現在でも堂々とした姿を見せています。



神話の里

阿蘇の農耕祭事

国の重要無形民俗文化財にも指定

国の重要無形民俗文化財の一つとして指定されている伝統的な農耕祭事は国造神社でも行われています。写真の御田祭では神様が農作物のようすを見て回り、一年の豊作を祈ります。



2 魅力

阿蘇の歴史を感じる

知られざる 手野の魅力

1 魅力

阿蘇の大地を感じる

湧き水の里

手野の名水



いわしみず
石清水こんこんと 湧き水の里・手野の象徴

国造神社からグリーンロードを1キロメートルほど登っていくと右手にあります。火山の噴火によって放出された噴出物が固まってできた岩の割れ目から澄んだ水が湧き出ているようすを見ることができます。遠くから水をくみに来る人もいます。

たるたん 垂谷の滝

地元で愛されてきた知る人ぞ知る滝

集落を抜け、林道を歩いて登った先にある小ぶりな滝。岩から染み出すように水が流れています。滝のそばには不動明王が祭られており、かつては滝に打たれて修業する人もいたそう。無人ながら管理が行き届いており、地元で愛されていることが伺えます。

ASO 田園空間博物館提供





夏の思い出



8月18日 木曜日

小学校のともだちと阿蘇にキャンプに行きました。キャンプ場はとも広かったです。池で魚のつかみ取りをしました。ヤマメはニョロニョロしていつかみにくかったです。つかまえることができずうれしかったです。つかまえた魚を処理するとき少しかわいそうにおもいました。魚はおいしかったです。夏休みはいろいろ行つたけれど阿蘇が一番楽しかったです。

菊陽町から訪れた山崎優衣さん(小学5年生)の思い出。

3

魅力

阿蘇の自然を感じる

古代の里キャンプ村

外遊びを満喫

壮大な自然の中でのんびりと

近年のアウトドアブームの中で、古代の里キャンプ村は阿蘇の自然を体感できる施設として人気を集めています。近くには川も流れており、森の澄んだ空気ときれいな水が訪れる人を癒します。

コテージは本格的なログハウス。台所用品やお風呂なども建物ごとに全て揃っているので初めてキャンプに来る家族連れや団体客も気軽に阿蘇の自然を楽しむことができます。

もちろん、お気に入りのテントを持ち込んでのんびりと過ごすこともできます。川の音や風に揺れる木々の音に包まれながら焚き火を楽しみたい、寝ているときも自然を感じていたい、そんな人たちにも人気の施設です。

自然に触れるアクティビティも

キャンプ場の人気アクティビティが「ヤマメのつかみ取り体験」です。場内の池に放流されたヤマメを素手で捕まえることができます。捕まえたヤマメはその場で焼いて食べられます。



ます。池に放たれたヤマメはまさに水を得た魚。すばしっこく動き回る魚を捕まえるのは一苦労ですが、その分おいしく感じるはず。自然に触れることができるおいしいアクティビティとして大人気です。

ふるさとを未来へ

ここまで紹介してきたスポットは、まさに手野地区の宝物と呼べる場所です。これらの宝物は手野地区の住民自らが管理し、外に向けて積極的に発信してきたことで現在までその姿を残しています。ふるさとの宝物を未来へ残していくために尽力する地域の人々を紹介します。

12年ぶり開催 ヤマメ釣り大会

6月5日、手野地区を流れる宮川でヤマメ釣り大会が12年ぶりに開かれました。市内外から49人が参加し、溪流での釣りを楽しみました。手野きよら会が主催。

菊池市から訪れた男性は「以前行われていたときも来ていたので楽しみにしていた」と復活を喜びました。

森下 瑠花 さん

道の駅阿蘇



道の駅阿蘇では、市民の皆さまが「地域の宝」として守り続けている自然、景観・風景、歴史・文化を「サテライト」として登録しています。96のサテライトが登録されており、市民の皆さまとともに将来につないでいくための活動を行っています。

国造神社や手野の名水、垂谷の滝もサテライトの一つ。手野名水会といっしょにそうめん流しやわらび狩りなどのイベントも行っています。道の駅阿蘇の森下瑠花さんは「地元の人との交流による地域の活性化がサテライト活動の目的の一つ。その地域を気に入ってもらうことで最終的に移住にもつながれば良い」と話します。

阿蘇にはまだまだ知られていないすてきな場所がたくさんあると話す森下さん。「地域の宝を残していきたいと考えている人は、お気軽に私たちまでご連絡ください」と呼びかけました。

☎ 道の駅阿蘇 ☎ 35-5088

三城 正明 さん

手野きよら会 会長



手野きよら会は、古代の里キャンプ村の管理を請け負っています。こちらも住民自らが立ち上げた地域づくりのための団体です。もともとは集落の若手が酒を酌み交わす集まりだったのですが、「酒を飲んでばかりでもいけないだろう」と一念発起。地域貢献として道路の清掃活動を始めました。キャンプ場の管理を始めたのは3年前。以前管理を請け負っていた団体がキャンプ場から撤退し、「施設を残していかなければ」と運営に手を挙げました。

キャンプ場は年中無休。三城さんはほぼ毎日キャンプ場で汗をかきます。「地元でないと管理できないと思うし、地元ですることによって地域の活性化にもつながると思う」。今年は12年ぶりにヤマメ釣り大会を復活させ、施設をリニューアル。キャンプする場所も増やしました。三城さんは「まだまだやりたいことがたくさんある」と楽しそうに笑いました。

山部 輝明 さん

手野名水会 会長



手野名水会は、地区の魅力を少しでも多くの人たちに知ってほしいという思いから、平成17年4月に古城6区の有志約10人で発足。15年以上にわたり、地区を盛り上げるための活動を続けています。

活動の中心となるのは手野地区の名所を巡るボランティアガイド。地域の歴史や、地元の人ならではの思い出話なども聞くことができます。昨年は約120人ほどのお客さんを案内したとのこと。ガイドの他に、手野の名水や垂谷の滝の管理も行っています。コロナ禍で中止となってしまいましたが、夏にはそうめん流しを企画するなど、さまざまな活動に積極的に取り組んでいます。山部さんは「色々なアイデアを出すことが大事」と強調します。現在は新たに案内する場所を開拓中とのこと。今後お客さんを案内できるよう整備していくそうです。